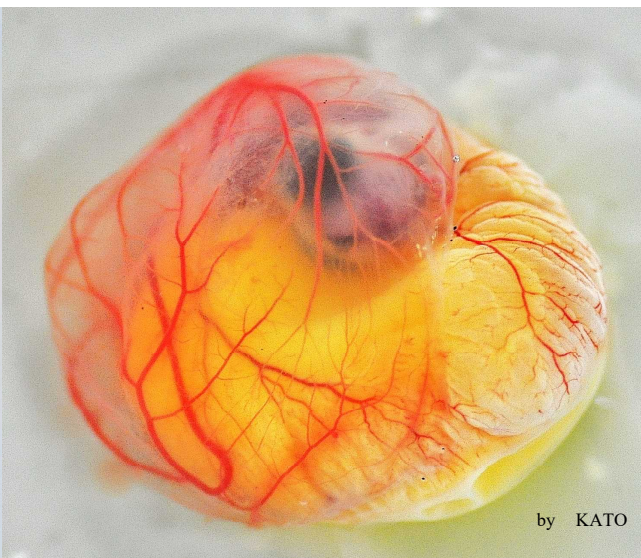


ウズラの胚発生



by KIZUKA

恒温器に入れて3日目（65時間後）



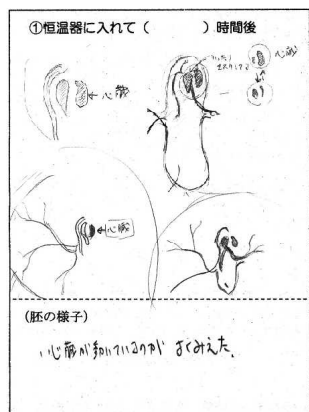
by KATO

恒温器に入れて6日目

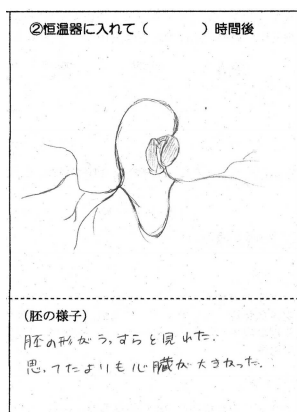
2014年5月13日（火）9時。3日前（10日16時）に**38℃**に設定した**恒温器**にウズラの受精卵を入れてから**65時間**が経過していた。新課程「生物」では、鳥類の発生としてウズラの発生過程の観察が扱われている。今回は、佐高初の「**ウズラの胚発生**」の観察である。

3年3組の生物選択者により、一人1個ずつ、ピンセットで卵の殻に穴を開けていく。少しずつ、胚を傷つけないように丁寧に作業を進める。発生が順調に進んでいけば、殻の内側の薄い皮（卵殻膜）を破っていくと、卵黄の表面に**赤い血管**が見えてくる。その後、さらに殻を割りながら、**生理的食塩水**で満たしたシャーレ内に胚全体を摘出する。（*写真左上は、木塚さんが摘出したもの）。**心臓が脈打ち**、今まさに、生きていることが実感できる。**17日目**には雛になったであろう**貴重な生命**である。ここから学ぶものは大きい。

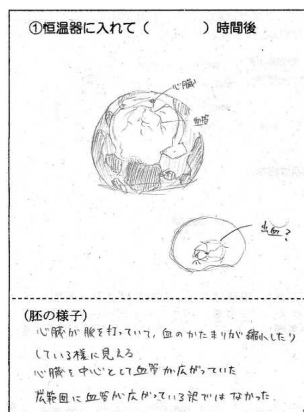
*写真右上は、5月17日（孵卵6日目）に加藤さんが摘出したもの。以下は生徒の観察スケッチ（一部編集）。



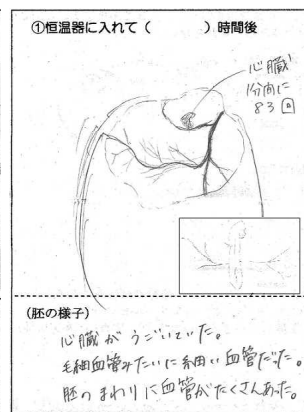
by KIZUKA



by KISHINO



by SHIMIZU



by SUZUKI

